

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月14日

【四半期会計期間】 第80期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 東亜ディーケーケー株式会社

【英訳名】 DKK-TOA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高橋俊夫

【本店の所在の場所】 東京都新宿区高田馬場一丁目29番10号

【電話番号】 (03) 3202-0211 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 磯部和史

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区高田馬場一丁目29番10号

【電話番号】 (03) 3202-0211 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 磯部和史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第79期 第2四半期 連結累計期間	第80期 第2四半期 連結累計期間	第79期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	7,154	7,666	16,540
経常利益 (百万円)	372	570	1,732
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	311	391	1,218
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	121	478	1,403
純資産額 (百万円)	18,908	20,242	20,085
総資産額 (百万円)	24,939	26,520	26,717
1株当たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	15.70	19.89	61.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.8	76.3	75.2
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	722	532	307
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	55	1,334	374
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	390	414	553
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	6,389	4,274	5,491

回次	第79期 第2四半期 連結会計期間	第80期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.31	10.70

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

2023年10月2日付で公表した「その他の関係会社の異動に関するお知らせ」のとおり、当第2四半期連結会計期間において、ダナハーコーポレーションがその他の関係会社に該当しないこととなり、ベラルトコーポレーションがその他の関係会社に該当することとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの業績、財務状況等に重要な影響を及ぼす可能性があるとして認識している事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び関係会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～9月30日）におけるわが国の経済は、企業の設備投資や個人消費の持ち直しがみられたものの、世界的な金融引締めに伴う海外景気の下振れ、円安進行や物価上昇等により先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは中期経営計画の2年目を迎え、製品開発を含む市場別重点施策を進めるとともに、経営基盤の整備に向けた積極的な投資を着実に実行しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、国内では、半導体関連を中心とした旺盛な設備投資需要の獲得等に注力しました。海外では、主要市場である中国・韓国・台湾での拡販に加え、東南アジアでのハック社との連携による販売強化、国家認証取得の加速化等に継続的に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、部材調達難は一部継続しているものの生産活動の回復が進んだことで、売上高は7,666百万円（前年同期比7.2%増）となりました。利益につきましては、増収に加え、販売価格の一部改定や製造原価低減の取り組みにより売上原価率が改善したことで、営業利益は545百万円（前年同期比51.4%増）、経常利益は570百万円（前年同期比53.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は391百万円（前年同期比25.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

< 計測機器事業 >

当事業の売上高は7,544百万円（前年同期比7.3%増）、セグメント利益は956百万円（前年同期比28.1%増）となりました。

環境・プロセス分析機器

この分野は、基本プロセス計測器、環境用大気測定装置、煙道排ガス用分析計、ボイラー水用分析装置、上下水道用分析計、環境用水質分析計、石油用分析計等であります。

国内においては、受注残の解消に加え、半導体関連の旺盛な設備投資需要や浄水場等公共インフラの活発な更新需要を取り込んだことで大幅増収となりました。一方海外では、特に注力している東南アジアでの販売が好調に推移したものの、中国において経済の回復に遅れが見られ、環境水質計案件が大幅に減少したことから減収となりました。これらの結果、当分野の売上高は2,459百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

科学分析機器

この分野は、ラボ用分析機器、ポータブル分析計であります。

受注残解消と堅調な販売により、当分野の売上高は541百万円（前年同期比16.2%増）となりました。

医療関連機器

この分野は、粉末型透析用剤溶解装置等であります。

コロナ禍からの回復需要が一巡し、当分野の売上高は331百万円（前年同期比25.3%減）となりました。

産業用ガス検知警報器

この分野は、バイオニクス機器株式会社が製造・販売する産業用ガス検知警報器であります。

国内での販売が増加し、当分野の売上高は199百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

電極・標準液、保守・修理、部品・その他

この分野は、前記環境・プロセス分析機器、科学分析機器、医療関連機器の分野における全製品群の補用品類、現地調整・定期点検及び修理、補用パーツ等に該当するものであります。

これらアフタービジネス分野につきましては、設備稼働維持のための保守点検が計画通り実施され、また価格改定の浸透が進んだことにより、売上高は4,012百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

< 不動産賃貸事業 >

東京都新宿区の本社に隣接の賃貸ビル1棟ほかを所有し、不動産賃貸事業を行っております。当事業の売上高は121百万円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は67百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ197百万円減少の26,520百万円となりました。これは、建設仮勘定が1,105百万円、棚卸資産が774百万円それぞれ増加し、現金及び預金が1,216百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が791百万円、電子記録債権が222百万円それぞれ減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ353百万円減少の6,278百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が194百万円、未払法人税等が137百万円それぞれ減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ156百万円増加の20,242百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,216百万円減少し、4,274百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、532百万円の収入（前年同期722百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益561百万円、減価償却費235百万円、売上債権の減少額1,014百万円、棚卸資産の増加額774百万円、法人税等の支払額310百万円、仕入債務の減少額230百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,334百万円の支出（前年同期55百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1,253百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、414百万円の支出（前年同期390百万円の支出）となりました。主な要因は、借入による収入250百万円、借入金の返済による支出284百万円、配当金の支払額353百万円であります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費197百万円は全て計測機器事業にかかわるものであります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,880,620	19,880,620	東京証券取引所 スタンダード市場	株主としての権利内容 に制限のない株式で、 単元株式数は100株で あります。
計	19,880,620	19,880,620	-	-

(注) 1 発行済株式のうち38,418株は、譲渡制限付株式報酬として自己株式を処分した際の現物出資(金銭報酬債権32百万円)によるものであります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金 残高(百万円)
2023年9月30日	-	19,880,620	-	1,842	-	1,297

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
ハック・カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東 京支店)	5600 Lindberg Drive, Loveland, CO 80539 The United States of America (東京都中央区日本橋3-11-1)	6,659	33.74
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋1-4-10	1,329	6.74
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	1,050	5.32
山下 直	東京都渋谷区	781	3.96
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	727	3.69
NHGGP JAPAN OPPORTUNITIES FUND, L.P. (常任代理人 株式会社三菱UF J銀行)	100 PARK AVENUE, SUITE 1600 NEW YORK, NY 10017 USA (東京都千代田区丸の内2-7-1)	705	3.57
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	462	2.34
株式会社三菱UF J銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	419	2.12
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿1-26-1	312	1.58
BANK JULIUS BAER AND CO. LTD. A/C FOR MR MITSUTOKI SHIGETA (常任代理人 株式会社三菱UF J銀行)	FLAT A 2/F CAINE TOWER 55 ABERDEEN STREET HONG KONG (東京都千代田区丸の内2-7-1)	264	1.34
計		12,711	64.40

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 143,400	-	株主としての権利内容 に制限のない、標準と なる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,726,800	197,268	同上
単元未満株式	普通株式 10,420	-	同上
発行済株式総数	19,880,620	-	-
総株主の議決権	-	197,268	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権40個)
含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式88株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 割合(%)
(自己保有株式) 東亜ディーケー ケー株式会社	東京都新宿区高 田馬場1-29-10	143,400		143,400	0.72
計	-	143,400		143,400	0.72

(注) 1 2023年8月4日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により、自己株式が38,418株減少しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,802	5,585
受取手形、売掛金及び契約資産	5,100	4,309
電子記録債権	2,059	1,836
商品及び製品	1,457	1,657
原材料	1,499	1,718
仕掛品	1,626	1,981
その他	266	321
流動資産合計	18,813	17,410
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,171	2,143
機械装置及び運搬具（純額）	73	61
工具、器具及び備品（純額）	250	275
土地	1,798	1,798
リース資産（純額）	111	108
建設仮勘定	168	1,274
有形固定資産合計	4,574	5,662
無形固定資産		
ソフトウェア	211	205
ソフトウェア仮勘定	-	48
その他	18	15
無形固定資産合計	229	269
投資その他の資産		
投資有価証券	2,393	2,478
退職給付に係る資産	37	34
繰延税金資産	328	324
その他	340	340
投資その他の資産合計	3,100	3,177
固定資産合計	7,904	9,109
資産合計	26,717	26,520

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,357	1,162
電子記録債務	603	568
短期借入金	258	240
リース債務	50	49
未払金	257	196
未払法人税等	331	194
未払消費税等	24	33
賞与引当金	328	400
役員賞与引当金	38	-
製品点検費用引当金	80	80
その他	237	323
流動負債合計	3,568	3,250
固定負債		
長期借入金	33	15
リース債務	82	78
長期未払金	66	121
長期預り保証金	365	365
役員退職慰労引当金	53	-
退職給付に係る負債	2,337	2,320
資産除去債務	124	125
固定負債合計	3,063	3,027
負債合計	6,631	6,278
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,842	1,842
資本剰余金	1,297	1,305
利益剰余金	15,829	15,866
自己株式	116	91
株主資本合計	18,853	18,923
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,321	1,397
退職給付に係る調整累計額	89	78
その他の包括利益累計額合計	1,232	1,319
純資産合計	20,085	20,242
負債純資産合計	26,717	26,520

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	7,154	7,666
売上原価	4,663	4,899
売上総利益	2,490	2,767
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	958	1,002
賞与引当金繰入額	164	185
退職給付費用	67	71
役員退職慰労引当金繰入額	2	1
貸倒引当金繰入額	0	-
減価償却費	44	46
研究開発費	226	196
その他	667	717
販売費及び一般管理費合計	2,130	2,221
営業利益	360	545
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	24	28
持分法による投資利益	3	2
その他	15	14
営業外収益合計	43	45
営業外費用		
支払利息	3	3
債権売却損	0	0
為替差損	28	17
その他	0	0
営業外費用合計	31	20
経常利益	372	570
特別利益		
固定資産売却益	-	0
投資有価証券売却益	63	-
特別利益合計	63	0
特別損失		
固定資産除却損	0	10
リース解約損	0	-
特別損失合計	0	10
税金等調整前四半期純利益	435	561
法人税等	124	169
四半期純利益	311	391
親会社株主に帰属する四半期純利益	311	391

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	311	391
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	198	75
退職給付に係る調整額	8	10
その他の包括利益合計	189	86
四半期包括利益	121	478
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	121	478

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	435	561
減価償却費	222	235
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2	1
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	37	13
退職給付費用	11	15
受取利息及び受取配当金	24	28
支払利息	3	3
持分法による投資損益(は益)	3	2
投資有価証券売却損益(は益)	63	-
有形固定資産除却損	0	10
有形固定資産売却損益(は益)	-	0
売上債権の増減額(は増加)	1,213	1,014
棚卸資産の増減額(は増加)	837	774
仕入債務の増減額(は減少)	17	230
その他の資産の増減額(は増加)	42	41
その他の負債の増減額(は減少)	51	67
小計	970	816
利息及び配当金の受取額	24	28
利息の支払額	2	3
法人税等の支払額	269	310
営業活動によるキャッシュ・フロー	722	532
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	198	1,253
有形固定資産の売却による収入	-	0
有形固定資産の除却による支出	-	9
投資有価証券の売却及び償還による収入	170	-
無形固定資産の取得による支出	28	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	55	1,334
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	250	250
短期借入金の返済による支出	250	250
長期借入金の返済による支出	31	34
配当金の支払額	336	353
リース債務の返済による支出	21	25
財務活動によるキャッシュ・フロー	390	414
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	277	1,216
現金及び現金同等物の期首残高	6,111	5,491
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,389	4,274

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
税金費用の計算 税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
(役員退職慰労引当金) 一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく必要額を計上しておりましたが、2023年6月開催の定時株主総会において役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給を決議しました。 これに伴い「役員退職慰労引当金」全額を取崩し、打ち切り支給の未払い分54百万円を固定負債の「長期未払金」に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	- 百万円	77百万円
電子記録債権	- 百万円	87百万円
支払手形	- 百万円	59百万円
電子記録債務	- 百万円	12百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	7,700百万円	5,585百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,311 "	1,311 "
現金及び現金同等物	6,389百万円	4,274百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	337	17	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	354	18	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	計測機器事業	不動産賃貸事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	7,032	121	7,154	7,154
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	7,032	121	7,154	7,154
セグメント利益	746	72	818	818

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	計測機器事業	不動産賃貸事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	7,544	121	7,666	7,666
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	7,544	121	7,666	7,666
セグメント利益	956	67	1,023	1,023

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
報告セグメント計	818	1,023
全社費用(注)	458	478
四半期連結損益計算書の営業利益	360	545

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	計測機器事業	不動産賃貸事業	計	
(主要な財又はサービス)				
環境・プロセス分析機器	2,222	-	2,222	2,222
科学分析機器	465	-	465	465
医療関連機器	443	-	443	443
産業用ガス検知警報器	168	-	168	168
電極・標準液	1,264	-	1,264	1,264
保守・修理	1,126	-	1,126	1,126
部品・その他	1,341	-	1,341	1,341
顧客との契約から生じる収益	7,032	-	7,032	7,032
(主たる地域市場)				
日本	5,599	-	5,599	5,599
中国	745	-	745	745
韓国	183	-	183	183
台湾	224	-	224	224
その他アジア	189	-	189	189
その他	90	-	90	90
顧客との契約から生じる収益	7,032	-	7,032	7,032
(収益認識の時期)				
一時点で移転される財又はサービス	7,032	-	7,032	7,032
顧客との契約から生じる収益	7,032	-	7,032	7,032
その他の収益(注)	-	121	121	121
外部顧客への売上高	7,032	121	7,154	7,154

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	計測機器事業	不動産賃貸事業	計	
(主要な財又はサービス)				
環境・プロセス分析機器	2,459	-	2,459	2,459
科学分析機器	541	-	541	541
医療関連機器	331	-	331	331
産業用ガス検知警報器	199	-	199	199
電極・標準液	1,347	-	1,347	1,347
保守・修理	1,216	-	1,216	1,216
部品・その他	1,448	-	1,448	1,448
顧客との契約から生じる収益	7,544	-	7,544	7,544
(主たる地域市場)				
日本	6,313	-	6,313	6,313
中国	526	-	526	526
韓国	150	-	150	150
台湾	151	-	151	151
その他アジア	316	-	316	316
その他	86	-	86	86
顧客との契約から生じる収益	7,544	-	7,544	7,544
(収益認識の時期)				
一時点で移転される財又はサービス	7,544	-	7,544	7,544
顧客との契約から生じる収益	7,544	-	7,544	7,544
その他の収益(注)	-	121	121	121
外部顧客への売上高	7,544	121	7,666	7,666

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入等であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	15円70銭	19円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	311	391
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	311	391
普通株式の期中平均株式数(株)	19,832,514	19,709,690

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

東亜ディーケーケー株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 澄 裕 和

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鳥 羽 正 浩

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東亜ディーケーケー株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東亜ディーケーケー株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。